

総合的な
学習の時
間

第2学年

熊野町立熊野東中学校

指導者 占部 真弓

内藤 泰子, 鎌田 正幸

安東 祐介, 平山 大裕

出木谷 浩江, 中本 恵理

吉澤 奈津子, 前原 章江

単
元
名

「地域の文化と異文化を比較して、わが町(県)を見つめよう」

本単元で育成する資質・能力

知識, 先を見通す力, 振り返る力, チャレンジ精神, 粘り強さ, 他者理解, 高い志

単元について

本単元は, 第1学年の「日本の伝統・文化を体験し, いろいろな地域と比べて熊野の良さを語ろう」の学習に続くものとして, 「地域の文化と異文化を比較して, わが町(県)を見つめよう」として位置づけたものである。熊野町の観光大使の一員として, 熊野の地場産業である「筆」を他国や他の地域の人に紹介する学習を通して, 自分の暮らす地域文化について調査取材し, 他の地域の文化と比較して学習を深める中で, 郷土に目を向け, 郷土に誇りを持ち, 熊野の地場産業をどのように発展させていくことができるか考えさせることを目標とする。

学習にあたっては, 「熊野町をPRしよう」を通して, 「ふるさと熊野」の良さや課題を見つめ直して解決方法を提案する。その過程を通して, 主体的・協動的に学習に取り組み, 地域の一員として, 熊野町の産業について新たな課題意識を持ち, 「ふるさと熊野」を見つめ直す機会にしたいと考えている。

学習活動においては, 地域の筆産業や広報活動に携わる方を招いて, 熊野町の文化や産業について紹介をしていただき, 熊野筆をPRするアイデアやプレゼンテーションの方法を学ぶ〔知識〕。単元の目標を常に意識して学習計画を立て, 時間や分担などの見通しをもつ〔先を見通す力〕。「熊野町」をPRするために粘り強く取り組む〔粘り強さ〕。よりよいプレゼンテーションにするために, 話し方や内容を修正する。他国の人の反応をもとに考える〔振り返る力〕。他国の人や地域の人に対して熊野町をPRするために, プレゼンテーションに取り組む〔チャレンジ精神〕。相手により伝わりやすいプレゼンテーションになるように相互評価を加えながら改善する。他国の文化や産業, 習慣を理解し, 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する〔他者理解〕。他国の人に「熊野町をPRする」という活動を通して感じた熊野町の課題や良さを見直して自分たちができる取組やアイデアを提案し, 熊野町の伝統産業や発展のために, 自分たちが出来る取り組みを考える〔高い志〕。

これまで身に付けてきた資質・能力を, 第3学年で, 「郷土熊野」の町づくりについて考え, 自分たちの意見を提案する場へとつなげていくために重要な単元である。

生徒の実態

平成29年度6月に実施した学習・生活アンケートのうち, 熊野の伝統文化に関する領域では, 次のような結果が得られた。

内容	肯定的回答		否定的回答	
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
郷土「熊野」が好きです。	51.6%	37.1%	8.9%	2.4%
郷土「熊野」を誇りに思います。	48.4%	37.1%	10.5%	4.0%
熊野の伝統や文化を, これからも受け継いでいきたいです。	30.9%	38.2%	24.4%	6.5%
熊野の伝統や文化を, 他の地域や外国の人に人知ってもらいたいです。	41.1%	34.7%	16.9%	7.3%
熊野の伝統や文化を, 日本語で紹介することができます。	58.9%	30.6%	7.3%	3.2%

「郷土『熊野』が好きです。」の肯定的回答は88.7%、「郷土『熊野』を誇りに思います。」の肯定的回答は85.5%と高く、郷土「熊野」を愛し、誇りに思っている生徒が多いことが分かる。

熊野の伝統や文化を、他の地域や外国に人に知ってもらいたいです。」の項目に対する肯定的回答は、75.8%であること、「熊野の伝統や文化を、日本語で紹介することが出来ます。」の肯定的回答は89.5%であることから、生徒は「熊野の伝統や文化を知ってもらうために、外国や他の地域の人に紹介したい」という意欲をもっていることが分かる。

以上のことから、熊野の伝統や文化をより深く探究し、地域の一員として主体的・協動的に取り組み、他国の人や他の地域の人に「熊野のPRをしよう」という活動の中で、郷土「熊野」の伝統や文化の良さを再認識し、これからも受け継いでいきたいという気持ちが高まっていくと考えられる。

単元の指導

指導にあたっては、熊野町の文化や歴史、伝統工芸などについて調べ、他国の文化や歴史と比較することを通してわが町の魅力を見つめ直し、それを発信することを目標として学習を進める。

人口が増加傾向にある他地域と比較し、熊野町が減少傾向にあることに疑問をもたせ、この疑問に対して、熊野町の文化や歴史、産業の側面から原因を探っていく。また、修学旅行で大使館を訪問することから、熊野町について他国の人にPRするという目標を第一サイクルのゴールに設定し、それを達成するために自ら積極的に粘り強く調べたり、地域の一員として高い志をもち、自分ができることを実践したりするなど、7つの資質・能力と関連付けながら生徒に目指すべき姿を意識させる。課題設定としては、昨年度3年生が行った大使館でのプレゼンテーションについての振り返りビデオを見せ、その発言から改善案を発見させ、さらに進化したプレゼンテーションを行うために何が必要かを考えさせる。計画を立てる際には、生徒に学習のゴールイメージをもたせ、自ら具体的な逆向きの学習計画を立てさせることで主体的に活動できるよう仕組む。

情報収集では、筆業者に携わる方の講話を聞いたり、インタビューを行ったりすることで筆のどのようなどころに重点をおいて紹介するべきかを考えさせる。

さらに、相手に興味をもって聞いてもらえるプレゼンテーションにするために、異国の文化や習慣などについても主体的、探究的に調べさせ、相手のニーズに合った情報を伝えていくことが大事であることにも気付かせたい。その上で、異文化交流につながる発表になるようにプレゼンテーションの流れや内容、話し方、パフォーマンスの工夫について試行錯誤しながら、よりよいプレゼンテーションにする。現地でプレゼンテーションを実行した後、他国の方の反応から感じた新たな気付きや第一サイクル全体を通して発見した熊野町の新たな魅力などについて考える。

第二サイクルでは、新たに気付いた熊野町のよさや課題、他国の方の反応から気付いた新たな魅力や、改善すべき内容をまとめ、地域の方を対象に報告会を開き、得た情報を還元していく。これまで漠然と考えていた熊野筆や熊野町のことについて、この学習を通して見つめ直し、今後もそれらを多くの人に伝えたり、高い志をもって地域発展のために自分自身が活動したり、受け継いでいく心を育成したい。

単元の目標

- ① 熊野町の文化や歴史、伝統工芸などについて情報収集を行い、必要な情報を取捨選択して発信することができる。
- ② 他国の文化や歴史に興味をもち、主体的に調べ学習に取り組むことができる。
- ③ 熊野町の文化と異文化を比較することを通してわが町の新たな魅力を発見したり、見つめ直したりすることができる。

単元の評価規準

ア 学習方法に関すること	イ 自分自身に関すること	ウ 他者や社会との関わりに関すること
<p>① 目標を設定し、それを達成するための見通しをもち、取り組んでいる。 【先を見通す力】</p> <p>② 目的に応じて手段を選択し、情報を適切に収集している。 【知識】</p> <p>③ プレゼンテーションの練習を行い、話し方や内容を修正し、よりよいプレゼンテーションをつくる。 【振り返る力】</p> <p>④ 自分の考えを、目的に応じて表現している。 【知識】</p> <p>⑤ シンキングツールを用いて、意見を交流し、考えを深めてまとめ方の工夫をしている。 【他者理解】</p>	<p>① 目標を達成するための探究的な活動に積極的に取り組んでいる。 【チャレンジ精神、粘り強さ】</p>	<p>① 地域の一員として、自分たちができる取り組みを考え、実践している。 【高い志】</p> <p>② 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重している。 【他者理解】</p>

育成しようとする資質・能力の本単元とのかかわり

<p>The diagram consists of a central green cylinder with '高い志' (High Ambition) at the top and '他者理解' (Understanding Others) in the middle. Below this are four smaller cylinders: 'チャレンジ精神' (Challenge Spirit) on the left, '先を見通す力' (Ability to See Ahead) in the center-left, '振り返る力' (Ability to Reflect) in the center-right, and '粘り強さ' (Stickiness) on the right. At the base is a yellow cylinder labeled '知識' (Knowledge). A pink spiral connects the '先を見通す力' and '振り返る力' cylinders.</p>	<p>〈高い志〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の一員として、自分たちができる取組を考え、実践しようとする。
	<p>〈知識〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に応じて手段を選択し、情報を適切に収集する。
	<p>〈振り返る力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プレゼンテーションの練習を行い、話し方や内容を修正し、よりよいプレゼンテーションにする。
	<p>〈先を見通す力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標を設定し、それを達成するための学習計画や方法をたてている。
	<p>〈チャレンジ精神〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標を達成するための探究的な活動に主体的かつ積極的に取り組む。
	<p>〈粘り強さ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題追求のために、試行錯誤し、粘り強く取り組む。
	<p>〈他者理解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① シンキングツールを用いて意見を交流し、まとめ方の工夫をしている。 ② 異なる考え方を尊重し、必要な情報を取り入れる。

指導と評価の計画

(全 35 時間)

時	学習内容	評価規準 【資質・能力】 (評価方法)	各教科との関連
1	課題の設定① ○ 本単元で学習する内容や価値について、理解する。 ・ 今年と昔の体育祭の写真を見て、生徒数を比較し、ずれを感じさせる。 ・ 熊野町内の人口減少の理由について考える。 ・ 本単元で学習する内容、身に付く力を確認し、見通しをもたせる。	ア①【先を見通す力】 (観察)	
2 3 4 5	情報の収集 整理・分析 課題の設定② ○ 調べたい情報を整理し、熊野の課題と魅力を発見する。 ・ 1年生での地域調べ学習を振り返る。 ・ さらに調査するべき情報を取捨選択する。 ・ 世界に誇れるものという視点から熊野町の何を紹介したらいいか考える。 ○ 先輩の大使館訪問についての振り返りから、今年度の学習の課題を設定する。 ・ 県外から見た熊野の評価を考える。 ・ 先輩からのビデオメッセージを見て、課題を見付ける。 ○ 情報を収集する。 ・ ゲストティーチャーの講話を聞き、熊野筆をPRするためのアイデアを収集する。 ○ 他国の人へのプレゼンテーションを目的とした活動計画を立てる。 ・ プレゼンテーションまでの予定を逆向きに考え、計画を立てる。	ウ①【高い志】 (観察) ア②【知識】 (ワークシート, 観察) ア①【先を見通す力】 (観察)	
6	課題の設定③ ○ プレゼンテーションのテーマを決定する。 ・ 得た情報をもとに、何について調べていくかを具体的に考える。	ア①【先を見通す力】 (ワークシート)	
7	情報の収集 ○ 調査方法を考える。 ・ グループで話し合いインターネット、文献、インタビューなどをどのように活用するかを考える。	ウ②【他者理解】 (観察)	
8 9 10 11 12	情報の収集 ○ プレゼンテーションに必要な情報を収集する。 ・ グループで話し合いインターネット、文献、インタビューなどをしながら、必要な情報を収集する。 ○ プレゼンテーションを行う国について調べる。 ・ インターネットや文献等でそれぞれの国について調べる。 ・ 調べた内容をまとめ、疑問に思ったことを書き出す。	イ①【粘り強さ】 (観察) ア②【知識】 (観察)	国語「説得力にある提案をしよう」聞き手の立場を想定して、説得力のある話を組み立てる。 社会「地域の変化や課題をとらえよう」様々な資料を収集し、適切に選択して調査テ

			ーマを追究している。
13 14 15	整理・分析 ○ プレゼンテーションの流れを決める。 ・ 集めた情報を整理し、相手意識をもつてプレゼンテーションの流れを決める。	イ①【チャレンジ精神】 (観察)	数学「資料の活用」目的に応じて資料を収集して整理する。 理科「化学変化と原子・分子」既習事項や実験結果を基に、考察をする。
16	情報の収集 ○ プレゼンテーションの仕方について学ぶ。 ・ 筆業者の広報担当者の方を講師として招き、プレゼンテーションの仕方について学ぶ。	ア②【知識】 (観察, ワークシート)	
17 18 19 20	まとめ・創造・表現 ○ プレゼンテーションの練習をする。 ・ 前時の学習を生かし、相手のニーズに合った内容のプレゼンテーションになるようにまとめる。 ・ 相手を意識した表現方法を考える。	イ①【粘り強さ】 (観察)	
21 22	実行 ○ 第1回プレゼンテーションを行う。 ・ 学級内で発表し、相互評価を行う。	ア④【知識】 (観察) ウ②【他者理解】 (観察, 発表)	国語「説得力のある提案をしよう」資料を活用して、分かりやすく印象的に話す。
23	振り返り【本時】 ○ プレゼンテーションの課題を見付け、改善する。 ・ 前時のプレゼンテーションの様子をビデオで見ながら、より相手に伝わるためにはどのように表現したらよいかを見付け、改善策を考える。 ・ 他者の評価も参考にする。	ア③【振り返る力】 (観察)	
24	まとめ・創造・表現 ○ プレゼンテーションを改善する。 ・ グループで考えた改善ポイントを意識しながらさらに練習を行う。	イ①【粘り強さ】 (観察)	
25	まとめ・創造・表現 ○ 相手を意識し、英語での表現に変える。 ・ 内容を取捨選択する。 ・ 英語での表現方法を学ぶ。	ア②【知識】 (観察) イ①【粘り強さ】 (観察)	英語「わたしの町紹介」There is/are. や接続詞を使って町の紹介をする。
26 27	実行 ○ 第2回プレゼンテーション(英語) ・ 他国の人に向けて英語でプレゼンテーションを行う。 ・ 評価をしてもらう。	ア④【知識】 (観察) ウ②【他者理解】 (観察, 発表)	英語「道案内」熊野町の観光スポットへの行き方をALTに紹介する。
28	振り返り 整理・分析 ○ 英語でのプレゼンテーションを振り返り、改善する。 ・ 前時の評価を参考にする。	ア③【振り返る力】 (ワークシート) ア⑤【他者理解】 (PMIシート)	
29	実行 ○ プレゼンテーションを行う。 ・ 他国の人に、プレゼンテーションをする。	ア④【知識】 (観察) ウ②【他者理解】 (観察, 発表)	

30 31	振り返り・整理分析 ○ プレゼンテーションを振り返る。 ・ 他国の人に伝わるプレゼンテーションになっていたかを振り返り、自己評価する。 ・ 相手の反応から気付いた熊野町の新たな魅力を考える。 ・ 伝統を守るためにできることを考える。 ・ 今後さらに多くの人に熊野町のよさを発信していくために地域の方への報告会を企画する。	イ①【粘り強さ】 (観察, ワークシート)	
32 33	まとめ・創造・表現 ○ 報告会の準備をする。 ・ 前時の学習で整理した熊野町の魅力やよさや、これまでの学習をもとに、報告会の資料を作成する。 ・ 報告会の資料を作成し、発表に向けて準備を行う。	ウ①【高い志】 (観察)	特別活動 「集団の一員としての責任」 美術「生活の中の配色の工夫」配色による色の効果を理解する。
34	実行 ○ 報告会を行う。 ・ お世話になった地域の方に、得た情報を発信する。	ア④【知識】 (観察) ウ②【他者理解】 (観察, 発表)	
35	振り返り ○ 単元の学習を振り返る。 ・ 熊野の文化と他の文化を比較することで得た情報をもとに、改めて熊野のよさと課題を見つめなおす。	ウ②【他者理解】 (ワークシート)	

本時の学習 (23/35 時間)

(1) 本時の目標

修学旅行の大使館でのプレゼンテーションの課題を見付け、グループで改善策を考えることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て (◆)	評価規準 (評価方法)	資質・能力 の評価 (評価方法)
1 本時の課題を確認する。 (10分)			
○ 本時の学習内容 ・ 本時のねらいを確認し、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">プレ発表会を振り返り、わかりやすいプレゼンテーションになるように改善を行うことができる。</div> ・ 改善策を考えるポイントについて確認する。 ・ PMI シートについて確認する。	◇ これまでの学習内容を想起させる。 ◇ 各グループでPMIシートに記入させる。		

<p>〈改善策を考える3つの視点〉</p> <p>○目的・伝えたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えたいのかがわかるか。 <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことが表現できているか。 ・誰に対しての発表かを意識しているか。 		<p>○発表の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な声の大きさ。 ・話す速さやリズム、抑揚。 ・体の向きや態度。 ・表情や手振り身振り。 	
---	--	---	--

2 改善策を考える。(30分)

<p>○ 改善策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレ発表会の映像を見ながら、PMIシートに記入する。 	<p>◇ 先生からの評価も参考に、改善策を考えさせる。</p> <p>◆ 改善策を考える3つの視点について意識させるよう、各グループに付き、適宜助言する。</p> <p>◇ 付箋紙にメモを取り、PMIシートに分類させる。</p>	<p>プレゼンテーションの練習を行い、話し方や内容を修正し、よりよいプレゼンテーションをつくる。</p> <p>(観察)</p> <p>【ア③】</p>	<p>目的に応じて手段を選択し、情報を適切に収集する。</p> <p>【知識】</p>
--	--	--	---

【少人数グループの活用】
課題解決の方法を話し合い、協同して問題を解決する。

PMI形式での整理において期待されるメモの内容

<p>P (Plus)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさがちょうどいい。 ・プレゼンテーション資料がよくそろっている。 ・筆を使っのパフォーマンスがいい。 ・伝えたい内容が良く伝わっている。 	<p>I (Interesting)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆を使ったパフォーマンスが印象的。 ・発表内容の〇〇がよい。 ・〇〇のようにするとさらによくなる。
<p>M (Minus)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声が小さく、発表態度に自信がない。 ・発表を原稿を見ていて、表情が伝わらない。 	

<p>○ PMIシートを基に、改善策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PMIシートのメモ等から自分たちの発表を吟味し、改善方法を考える。 	<p>◇ 具体的な改善ポイントを分かりやすくまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間があれば修正作業をさせる。 		
---	---	--	--

【言語活動の充実】
自分たちの班の課題と、課題解決のための方法を明らかにして発表する。

3 まとめをする。(10分)

<p>○ 学習の振り返りを行う。</p> <p>○ 次回の学習内容を確認する。</p>	<p>◇ 本時の振り返り（自己評価）を書かせる。</p> <p>◇ 修学旅行でのプレゼンテーションに向けて、発表の見直しをすることを伝える。</p>		
---	--	--	--

(3) 板書計画

本時のめあて プレ発表会を振り返り，分かりやすいプレゼンになるように改善を行うことができる。

学習の流れ

- 1 本時の学習内容の確認
- 2 改善策を考える
- 3 班ごとに発表
- 4 まとめ・振り返り

改善策

1班



・・・8班

